

「環境ステージ」講演・セミナーに関するご案内（下）

419社の“包む”にまつわる最新鋭の機器・技術・サービスが集結する総合展示会



JAPAN PACK²⁰²³

[日本包装産業展]

10月3日(火)～6日(金) 10:00-17:00

東京ビッグサイト 東展示棟（2～6ホール）

一般社団法人日本包装機械工業会（東京都中央区／会長：大森 利夫）は、2023年10月3日(火)から10月6日(金)の4日間にわたり、東京ビッグサイト（東京都江東区）にて「JAPAN PACK 2023 [日本包装産業展]」を開催します。

34回目を迎える今回展の特徴の1つとして、新設の「環境ステージ」と「自動化ステージ」がございます。各ステージでは、業界を代表する著名な方々を講師に招聘し、包装にまつわる製造現場の自動化・効率化、持続可能な社会の実現に向けて、多種多様なソリューションを発信する講演会・セミナーを50本以上実施します。

今回のご案内では、東展示棟3ホール「環境ステージ」で実施される《環境》に関する講演・セミナーを、「流通・小売」、「包装機械・材料・関連機資材」、「産学・海外」と、業界別にご紹介いたします。

※ 「官公庁・団体」、「食品・飲料」、「医薬・化粧品・日用品」の講演・セミナーは、「環境ステージ」講演・セミナーに関するご案内（上）をご確認ください

各種講演・セミナーのご聴講には事前登録が必要となります。下記公式ウェブサイトにて詳細をご確認いただき、ご登録くださいますようお願い申し上げます。

<https://www.japanpack.jp/seminar/seminar.html>

なお、報道機関の皆様のご取材の申し込みにつきましては、JAPAN PACK2023 広報事務局宛にお申込みいただきますようお願い申し上げます。（お申込みは[こちら](#)から）

〈報道関係者向け お問い合わせ先〉

JAPAN PACK 2023 広報事務局

株式会社エイレックス

TEL：03-3505-3513

FAX：03-3560-1290

MAIL：japanpack@arex-corp.com

《環境》に関する業界別スケジュール

流通・小売業界

10月3日（火）

時間	項目
14:30-16:30	<p>特別企画【CLOMA パネルディスカッション】 「日本のサーキュラーエコノミーを牽引する～CLOMA メンバーの取り組み～」 「持続可能なプラスチック利用に向けたイオンの取組」</p> <p>〈コーディネーター〉 CLOMA 事務局 技術統括 柳田 康一氏</p> <p>〈パネリスト〉 ・イオン(株) 環境・社会貢献部 部長 鈴木 隆博氏</p> <p>イオンは、1991年「買物袋持参運動」開始以降30年以上にわたり、商品の容器包装の刷新やお客さまと取り組むレジ袋の削減、店頭での資源回収など、省資源・資源循環に取り組んできました。近年、これらの3R取組を更に進化させるべく、「イオンプラスチック利用方針」のもと、化石由来から環境配慮型の素材への転換、店舗を拠点とした資源循環モデルの構築など、店舗・商品・お客さまの視点で、地域のあらゆるステークホルダの皆さまとともに循環型の新たなライフスタイルの定着を目指しています。</p> <p>・ネスレ日本(株)、花王(株)、アマタ(株)</p> <p>その他のパネリストのプレゼンテーション内容については各業界のスケジュールに記載しております</p>

包装機械・材料・関連機資材業界

10月3日（火）

時間	項目
14:30-16:30	<p>特別企画【CLOMA パネルディスカッション】 「日本のサーキュラーエコノミーを牽引する～CLOMA メンバーの取り組み～」 「資源循環を軸にした互助共助の仕組みづくりへの挑戦」</p> <p>〈コーディネーター〉 CLOMA 事務局 技術統括 柳田 康一氏</p> <p>〈パネリスト〉 ・アマタ(株) 代表取締役 田部井 進一氏</p> <p>アマタグループは、エコシステム社会構想 2030 を昨年 11 月に発表しました。発展すればするほど、自然資本と人間関係性本が増加する持続可能な社会を創るべく、3つの取り組み（①企業と自治体の共創による「互助共助コミュニティ型資源回収ステーション MEGURUSTATION」、②循環型社会を創る企業連合（J-CEP）、③企業の移行戦略）をご紹介します。</p> <p>・ネスレ日本(株)、花王(株)、イオン(株)</p> <p>その他のパネリストのプレゼンテーション内容については各業界のスケジュールに記載しております</p>

10月5日(木)

10:10-11:30	<p>「特別企画【包装ライフサイクルセッション】 「持続可能な社会の実現にむけて DNP 環境配慮パッケージング GREENPACKAGING と DNP GREEN サポートプログラム」 ・大日本印刷(株) Life デザイン事業部 IPC ビジネスデザイン本部 環境ビジネス推進部 1G 宇都宮 由花 氏</p> <p>持続可能な社会の実現に向けて、世界中で環境配慮が必須となってきています。DNP ではモノ作りの立場から展開している DNP GREEN PACKAGING と環境と事業を繋ぐソリューションとして DNP GREEN サポートプログラムを展開しています。その概要と事例について説明します。</p> <p>「持続可能な社会の実現に向けてパッケージでできること」 ・凸版印刷(株) 生活・産業事業本部 SX 推進センター SX 事業開発本部 戦略チーム 三瓶 謙二 氏</p> <p>気候変動などの環境問題をきっかけに、持続可能な社会への機運が高まっています。本講演では、透明蒸着バリアフィルムで世界シェア第1位の「GL BARRIER」の活用により CO2 排出量削減を実現する各バリア包材、リサイクル適性を向上させるモノマテリアル包材など、持続可能な社会の実現に向けたトッパンの最新の取り組みをご紹介します。</p> <p>「禁忌品古紙の回収・再利用システムの構築について」 ・王子ホールディングス(株) イノベーション推進本部パッケージング推進センター・上級研究員 三浦 高弘 氏</p> <p>持続可能な社会の実現に向けて、禁忌品古紙は回収されず、燃えるゴミ扱いで焼却されています。古紙再生促進センターにて禁忌品である使用済み紙コップの回収・再利用システムを開発し、「使用済み紙コップのマテリアルリサイクル開始」に成功しました。また、リサイクル可能な紙コップ原紙の開発に成功したことも発表します。</p> <p>「プラスチック容器包装の資源循環・環境配慮」 ・プラスチック容器包装リサイクル推進協議会 専務理事 久保 直紀 氏</p> <p>プラスチック資源循環促進法が施行され、プラスチック容器包装・製品の資源循環・リサイクルの新たなしくみづくりをはじめ、プラスチック容器包装の環境配慮の深化など、当協議会の取り組みを紹介します。</p>
-------------	---

10月6日(金)

10:30-11:15	<p>【特別講演】 「企業連携による使用済みプラスチック循環社会への挑戦」 (株)アールプラスジャパン 代表取締役社長 横井 恒彦 氏</p> <p>木材を PET ボトルの素原料に変換する既往技術を、使用済みプラスチックの再生に発展させるべく、40社に及ぶ企業連携により支援しております。コアとなる技術の概要に加え、ケミカルリサイクルを後押しするパッケージ技術や啓発活動など、循環社会の実現にむけた内容を紹介いたします。</p>
-------------	---

<p>11:45～12:45</p>	<p>特別企画【CLOMA セッション(第1部)】 11:45～12:05 「多層技術、二重容器から環境対応へ進化した今までにない画期的な容器『スポット Eco ボトル』」 キョーラク(株) パッケージング事業部 シニアマネジャー 吉田 攻一郎 氏</p> <p>12:05～12:25 「環境配慮型、A-PET プラスチックカップのご紹介」 東名化学工業(株) 営業部・開発統括チームリーダー 寺川 雄介 氏</p> <p>12:25～12:45 「新しい脱プラパッケージ～パルプ発泡成形品/PaperFoam®のご紹介～」 NISSHA(株) 産業資材事業部事業戦略部 ecosense molding 推進グループ 今井 宏樹 氏</p>
<p>13:15～14:15</p>	<p>特別企画【CLOMA セッション(第2部)】 13:15～13:35 「廃プラスチックのケミカルリサイクルと未来の理想像」 環境エネルギー(株) 代表取締役 野田 修嗣 氏</p> <p>13:35～13:55 「プラスチックゴミゼロへの挑戦」 グンゼ(株) プラスチックカンパニー営業統括部 リモート営業開発課 課長 前原 志保 氏</p> <p>13:55～14:15 「プラスチックマテリアルリサイクル技術 ～静電選別技術～」 三菱電機(株) 営業本部 事業推進部 リサイクル共創センター センター長 井関 康人 氏</p>
<p>14:45～15:45</p>	<p>特別企画【CLOMA セッション(第3部)】 14:45～15:05 「デジタル印刷を用いた軟包装材の包材ロス削減について」 福島印刷工業(株) 営業戦略本部マーケティング部開発室長 吉田 潤一 氏</p> <p>15:05～15:25 「木材パルプから作られる機能性フィルム・環境対応素材」 レンゴー(株) 化学品・セルロース商品開発本部 副本部長 杉山 公寿 氏</p> <p>15:25～15:45 「海洋プラスチックごみ問題に挑む企業アライアンス“CLOMA”」 CLOMA 事務局 渡辺 真司 氏</p>

産学・海外

10月3日(火)

時間	項目
15:40-16:20	<p>【Special Session】 「Aiming for Easy-to-Introduce Automation in the Packaging Fields」 Dr. Kiyonori Inaba FANUC CORPORATION Executive Managing Officer General Manager, ROBOT Business Division</p> <p>Demand for automation using industrial robots is rapidly increasing at manufacturing sites facing labor shortages.</p> <p>In this presentation, we will introduce the utilization of industrial robots that are easy to introduce in the packaging fields and our efforts to realize smart factories, focusing mainly on collaborative robots that work together with humans, digital twins, IoT, and AI.</p>
16:20-16:50	<p>【Special Session】 「Introduction of recent legislation on plastic packaging and waste in Japan and future directions」 Mr. Shusei Matsuda TOYOBO PACKAGING PLANNING SERVICES, INC. Senior Advisor (Former General Manager of Technology Management Dept.)</p> <p>In Japan, legislation on environmentally friendly design and resource recycling, particularly for plastic packaging and plastic waste, has progressed rapidly over the past three to four years. This presentation will touch on the characteristics of this trend in comparison with Europe and the U.S., and will briefly discuss the future direction of the trend with actual examples.</p>

10月4日(水)

16:00-16:50	<p>【JAPAN PACK セミナー】 「海外の最近の包装事情と予想される動き」 (株)東洋紡パッケージング・プラン・サービス シニアアドバイザー 松田 修成 氏</p> <p>環境対応問題に対する海外の包装事情について、各国の規制、その動向をインターパック 2023 及びそれ以降の動きを含め、紹介します。また、容器包装や包装設備機器の拓く未来の可能性についてもご説明します。</p>
-------------	--

10月5日（木）

【JAPAN PACK セミナー】

「環境問題から見える学校教育」

全国小中学校環境教育研究会 会長／東京都多摩市立連光寺小学校 校長 関口 寿也 氏

14:50-15:40

これからの地球環境を考える上で、プラスチック問題のウエイトはどれほどでしょうか。SDGs 13には「気候変動」が取り上げられています。IPCCの第6次報告書に記されるように、地球温暖化は臨界点一步手前の状況です。一方、プラスチック問題についてはどうでしょうか。12の「つくる責任つかう責任」にカテゴライズされていることをよく目にします。私たち小中学校環境教育研究会でも、環境教育の一環として「つかう責任」にフォーカスを当て授業実践を行ってきました。しかし、その実践から見えてきたものは、これまでの教育の在り方では何も変えられないという現実、温暖化以上の無力感でした。

温暖化やプラスチック問題の環境課題を切り口として学校教育の中で実践するには、ESD（持続発展教育）の考え方が欠かせません。未来を担う子供たちのために、私たち大人のパラダイムシフトが求められているのです。

開催場所：東展示棟3ホール「環境ステージ」



開催概要

- 名称 JAPAN PACK 2023 [日本包装産業展]
Japan Packaging & Manufacturing Technology Show 2023
- テーマ 未来への包程式 – 当たり前その先へ –
- 会期 2023年10月3日(火)～6日(金) 10:00～17:00
- 会場 東京ビッグサイト 東展示棟2～6ホール
所在地：東京都江東区有明3-10-1 (〒135-0063)
- 開催目的 国内外の包装機械、包装資材、包装材料加工機械、食品加工機械、医薬品・化粧品・日用品製造機器、物流機器、およびそれらに関連する技術・サービスを展示公開し、産業の合理化と国民生活の向上に寄与するとともに貿易の振興を図り、包装関連業界ならびに需要業界の発展を通じて、より良い社会の実現に資することを目的とする。
- 主催 一般社団法人日本包装機械工業会
- 展示分類 第1類：包装機械／荷造機械
第2類：包装資材・容器
第3類：印刷機械・関連機器／包材加工機械
第4類：ロボット／機械部品・要素技術／包装関連機械／検査機・検出器
第5類：食品加工機械・関連機器
第6類：医薬品・化粧品・日用品製造機械・関連機器
第7類：環境対策機械・関連機器
第8類：衛生管理機器・資材
第9類：物流機械・関連機器／店舗設備機械
第10類：デジタル技術／ソフトウェア
第11類：エンジニアリング・システム
第12類：団体／プレス／研究・教育機関／人材サポート／その他
- 展示規模 出展者数：419社・団体 総小間数：1,873小間（2023年9月1日現在）
- 来場者層 食品・飲料関係／医薬・化粧品・日用品・化学品関係／繊維・雑貨・文具関係／鉄鋼・輸送機器・電気関係／小売・流通・サービス関係／機械・機械部品・ロボット関係／包装材料・容器・印刷関係／情報機器・ソフトウェア関係／プラントエンジニアリング関係／官公庁・団体・関連機関／一般・個人／学生／報道関係／その他
- 入場 完全事前登録制（無料）
<https://www.japanpack.jp/seminar/seminar.html>